

## 会議録

会議の名称	令和5年度 第1回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会
開催日時	令和5年6月23日(金) 午後2時から午後3時15分まで
開催場所	加東市役所 3階 301・302会議室
議長の氏名(会長 梅野 巨利)	
出席委員の氏名	
〈出席委員〉	
・梅野 巨利 ・小倉 康 ・神田 耕司 ・北山 敏則 ・小林 邦子 ・吉田 伊佐見 ・白井 すす子 ・丸山 美智子 ・村上 加奈子 ・肥田 繁樹	
出席した事務局職員の氏名及びその職	
・市長 岩根 正 ・技監 野崎 敏 ・上下水道部長 小坂 征幸 ・上下水道部管理課長 阿江 英俊 ・上下水道部工務課長 西角 昌記 ・上下水道部工務課副課長 荻野 克弥 ・上下水道部管理課副課長 遠藤 祐希 ・上下水道部管理課主査 神戸 幸子 ・上下水道部管理課主事 藤井 小夜	
傍聴者 なし	
1 諮問 適正な水道料金について	
2 報告・協議事項 施設・管路更新計画を踏まえての水道料金及び下水道使用料の検討 (1) 資料1 水道事業 「アセットマネジメントに関する報告」 (2) 資料2 下水道事業 「施設・管路更新計画を踏まえた使用料の検討」	
3 会議資料 (1) 次第、参加者名簿、配席図 (2) 諮問第10号「適正な水道料金について(諮問)」(写し) (3) 水道事業 アセットマネジメントに関する報告 (4) 下水道事業 施設・管路更新計画を踏まえた使用料の検討 (5) 参考資料「適正な水道料金・下水道使用料について(答申)」 (令和元年度諮問第4号に対する答申)	
4 会議の経過 ⇒別紙「令和5年度第1回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過」のとおり	
令和5年8月10日	
会長	梅野 巨利
審議会委員	吉田 伊佐見

(別紙) 令和5年度 第1回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	<p>1 開会 事務局より定足数の確認を行い、本運営審議会が成立することを報告した。</p> <p>2 会長挨拶 会長より開会の挨拶。</p> <p>3 市長挨拶 市長より挨拶。</p> <p>4 諮問 市長から審議会へ諮問書を提出した。</p> <p>5 報告・協議事項 (1) 水道事業 アセットマネジメントに関する報告 事務局より、資料1に沿って説明を行い、その後に質疑応答を行った。</p>
委員	<p>令和元年度検討時には、4年に1回定期的に協議を行う事としており、この度は令和6年度に料金改定をするかどうかの議論をすると思っていたが、今回の資料で急に8年に1回となり、令和10年度に変えているのはなぜか。 市がアセットマネジメントにより検討した結果、8年ごとの見直しに変更した、という理解でいいのか。</p>
事務局	<p>4年ごとに検討を行うという予定に変更はない。 なお、前回の検討ではアセットマネジメントの簡易支援ツールを使い、令和6年度に5%、それ以降12年ごとに料金改定を行うというシミュレーションパターンが妥当であると答申していただいた。 今回の見直し検討では、水道法の改正に伴う水道施設台帳更新や、アセットマネジメントにより、4年前から情報を一新し、改めて検討を行った。その結果として、8年ごとの料金改定を提案させていただいたものである。</p>
委員	<p>前回検討時の課題項目は考慮されており、その結果が先ほどの報告内容であるということでは了解した。 もし見直し期間を延長するのであれば、そのことにより赤字経営になってしまうのではと懸念していたが、違うということであれば問題はない。 コロナ禍後、物価高騰の現状で、心情的には値上げしてほしくはないが、真に生活が差し迫った人に対する補助金などの配慮については市で考えてもらうことであり、水道事業経営とは分けて考えるべきかと思う。 この度の報告の方針としては、令和6年度の改定は不要で、令和10年度まで改定を延期したので4年後に再度検討してほしい、ということによろしいか。</p>
事務局	<p>委員のいわれる通りである。</p>
委員	<p>資料11ページ「その他経費」にある「物価上昇率」が、前回の0.3%から今回の1.16%にと、3.6倍も上昇しているが、計算根拠は何か。</p>
事務局	<p>過去5か年の政府の統計平均値により計算している。</p>

委員	資料7ページ「工事費の計算方法」では「近年の材料費大幅高騰を加味した」と記載があるが、それだけではなく、加東市全域でみられる作業員の高齢化、若手人材の人手不足による単価高騰も要因に含めてほしい。
事務局	次回検討時には言われる要素や、その他考えうる要因について、社会情勢を勘案し、盛り込むこととする。
委員	シミュレーション結果でも、参考結果でも、R34に突然20%もの値上げをしているのはなぜか。
事務局	投資事業の計画には、金額が多い時期と少ない時期の差異がどうしても生じてしまう。その投資予定の金額に合わせて、資金残高不足にも、経常収支赤字にもならない状態を保つシミュレーションを行った結果が、グラフの通りとなっている。
委員	例えば現在施工中の広沢浄水場などといった大きな工事が、数十年ごとに投資のピークとなって影響してくるということか。
事務局	その通りである。 ただし、年ごとで工事費の増減が大きくなならないよう、期待耐用年数を用いて、平準化した更新計画を立てている。 また大きな更新については数十年単位の話になるので、様々な社会情勢の変化なども想定されるが、今回のシミュレーションにはそこまで含めていない。
	(2) 下水道事業 施設・管路更新計画を踏まえた使用料の検討 事務局より、資料2に沿って説明を行った。
	(質疑なし)
	5 その他 ・意見書の提出を依頼（〆切7月7日（金）） ・委員の任期満了について
	6 閉会 神田会長職務代理者より閉会の挨拶。